

「起業の新しいかたち」

IT時代はわたくしたち一人一人の個性の輝きを表舞台に登場させることのできる社会です。ネットワークの力によっていつでもどこでも情報を受けたり、伝えたりすることが可能となり、コンピュータに始まるデジタル化された道具の登場は個人が容易に生産に関わる機会をもたらしました。このような変化は働き方にまで及んでおり、多様な働き方は新たな産業を創出する力にもなると思われます。そのひとつに私は「女性による新しい起業のかたち」があると考えます。すでにアメリカでは組織に属さずに独立して自分にとって好ましい条件で働くフリーエージェントという人々が急激な勢いで増加しています。彼らが大切にしている価値観は“自由”であり“家族”であり“自分流の生き方”です。「フリーエージェント社会の到来」ダイヤモンド社によると2010年には労働人口の41%がフリーエージェントになると推計されています。中でも女性が自宅を拠点にビジネスを営むスタイルの増加率は男性の2倍にも上ると言われています。さて、日本では今年の2月より資本金1円から会社を設立できる最低資本金規制特例制度が始まりました。4月までに700社以上の会社が生まれ、その内容の多くはサービス分野やコンサルタント業など個人で活動可能なワークスタイルが多くを占めており、起業者の4人に1人は女性ということです。「卓越したい社会と退行的で墮落した社会とを分けるものは、起業家精神を発揮する機会に恵まれているかどうか、そして、その社会に起業家が大勢いるかどうかという点である。」と心理学者のマズローが述べたように、閉塞感に包まれた現在このような現象は未来へと育まれる新しい芽吹きと感じられます。

ところで、私の担当する女子大の「起業論」のクラスは1年生から4年生で韓国からやってきた学生たちや社会人学生などバラエティーに富んでいます。先日ビジネスプラン作りの課題のグループ発表が行われました。彼女たちが考えたアイデアに満ちた天真爛漫なビジネスプランの根底にあるものは“人とのふれあい”と思えました。そしてその視点は食の文化、健康への気遣い、子供の遊びと教育、高齢者への配慮などゆとりの実現をテーマにしたものが多く、まさに生活世界に根ざしたサービスと感じます。

これまでの一方的な流れのモノやサービスを中心にした形態と異なり、生活者の視点に立ったビジネスは、事業者と生活者の双方向の関係性や信頼を前提にした交流が基本となります。社会貢献の視点と細やかな心配りがある産業活動では事業者と生活者の双方向の交流のインフラとしてITは有効に機能することになります。生活者と事業者が共に創りあげていくようなコミュニティを巻き込んだビジネスモデルがITの進展と共に、今後産業活動の一分野として花開くことが期待されます。